

2019年1月8日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第178回 景気動向調査（10～12月期）

☆平成最後の年末 ともにプラス圏へ・・・売上DI+8.5 収益DI+3.0

☆生産性向上へ設備投資進む・・・「実施中・予定あり」18.4%

☆仕入単価と人手不足が焦点に・・・経営上の問題点 ともに4割超え

☆3年連続6割突破・・・冬季賞与「支給する」64.9%

●平成最後の年末 ともにプラス圏へ 売上DI+8.5 収益DI+3.0

総合では、売上DI+8.5(前回比+5.9ポイント)、収益DI+3.0(前回比+3.7ポイント)となり、売上DI、収益DIともに上昇しました。業種別では、運輸業が引き続きプラス圏で推移しているほか、製造業と建設業が上昇し全体を牽引しています。また、飲食業が急伸びしました。地震や台風直後の停滞を脱し、需要が回復したものと考えられます。

1-3月期は、総合で売上DIが3.2ポイント、収益DIが1.5ポイントともに下落と予想しています。昨年初頭の売上の鈍化もあり、今年も慎重な見方が広がっています。

●生産性向上へ設備投資進む 「実施中・予定あり」18.4%

設備投資は、総合では「実施中」9.0%(前回比+1.7ポイント)、「予定あり」9.4%(前回比△0.6ポイント)で合計18.4%と前回より増加しました。特に製造業は20%台を維持し、建設業は再び増加に転じました。台風の被害を受けた企業が多く、修繕とともに新設などを検討していると思われます。公的な融資支援もあり借入の利用が増加しました。

●仕入単価と人手不足が焦点に 経営上の問題点 ともに4割超え

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が46.7%(前回比+3.5ポイント)で3期連続第1位となりました。ガソリン価格は一段落しましたが、鉄鋼などの原材料価格は依然として高く、物流コストも増加していることが要因と考えられます。

「人手不足」が42.4%(前回比+5.1ポイント)と第2位に浮上し、特に製造業、建設業、運輸業で急増しています。

今回同時に行った特別調査でも、国へコスト増加や人手不足への対応策を求めており、「仕入単価の上昇」と「人手不足」は今後も重要な課題になると思われます。

●3年連続6割突破 冬季賞与「支給する」64.9%

冬季賞与の支給は、総合では「支給する」が64.9%(前年比+0.6ポイント)となり、3年連続で6割台を維持しています。特に製造業、卸売業、建設業で7割を超えており、従業員10人超の企業は8割を超えました。

人手不足の中、賃上げに踏み切る企業はありますが、先行きが不透明であり、賃金ではなく、賞与など一時金での支給にとどめる企業が多いものと思われます。

調査時点：2018年12月上旬

対象期間：2018年10～12月（実績） 2019年1～3月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,791社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,509社（回答率84.3%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：福井）

TEL: (06) 6775-6590 FAX: (06) 6772-1630

E-mail: souken@osaka-shinkin.co.jp URL: http://www.osaka-shinkin.co.jp